



壁一面のこんにちは!



岩井先生の生け花と
着物体験の外国人



フランス語講座生の発表



和服姿の日本語教室生徒



きもの体験
(中央：田口慶子先生)



日本語火曜日クラスの発表



着物の着付け



男性の着物着付け



ドイツブース



AIRA ブース (日本語生)



お茶席の小笠原先生と
色紙「和」



お茶席の星野市長・
今井県議



チケット売り場



受付



お茶席券売り場



満席のキッズコーナー



韓国語講座生の発表



手賀沼サンセット



踊るカップダンスキッズ

国際交流まつり にのせて から始めようー



石井幸枝さん(フルート)と
田山ひろみさん(ピアノ)



日本語土曜日クラスの発表



中国語講座生の発表



閉会の辞
(北嶋実行委員長)



徒



フランスブース



アホドリ饅頭売り場



AIRA ブースで販売する
日本語生徒



韓国ブース



ヘルブース



外国人何でも相談コーナー

アメリカブース



中国ブース



中国茶の試飲



物品販売



お楽しみ抽選会
(村越さん、王さん、趙さん)

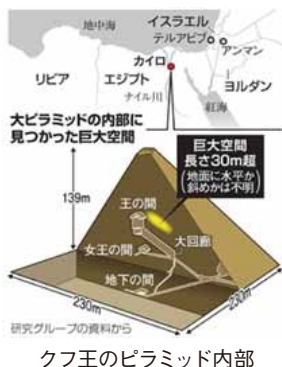
「私が出会った忘れられない人々」

前AIRA会長 菅野 哲哉



「吉村作治」(古代エジプト研究者)

吉村氏は学生時代から古代エジプトに強い関心を持ち、早稲田大学入学後も同学古代エジプト研究所の仲間達とともに作業の出来る一年の半分は古代遺跡を求めて穴を掘り、壁を掘り、気の遠くなるような作業を延々と続けていました。人工衛星の画像解析から実現した地下遺跡の発見は世界初として学会でも注目されました。またクフ王ピラミッド脇での「第2の太陽の舟」遺構の発見は世界的な話題となりました。



カイロの我が家で吉村氏の講演会を催した際、私の後輩と言うこともあり気軽に引き受けてくれ当日は3時間に及ぶ講演に大勢の聴衆は大満足の様子でした。オフシーズンとともに日本に姿を現わす吉村氏はテレビ、ラジオ、講演会、著作などで大忙しです。ある時、「忙しそうで結構だけど本業に差し支えないの？」と水を向けると、「よく聞かれます。発掘事業はまだまだ続きます。巨額が必要です。クイズ番組でもなんでも全部引き受けます。その出演料はすべてエジプト事業につぎ込んでいます」。この時私は同氏のエジプトへの情熱とその不動の決意に圧倒されました。欧米をものぐ高い水準に日本の古代エジプト学のレベルを上げた人物と言ってもいいのではないかと思います。いつも熱い吉村「青年」のエジプト探求は今後も続くことでしょう。

「黒沼ゆり子」(ヴァイオリニスト)

メキシコに出張の際、同地で「アカデミア・ユリコ・クロマ」を主宰し数多くのメキシコの若者達にヴァイオリンを指導している黒沼ユリコ氏を紹介され、音楽仲間達との賑やかな昼食会で一緒にすることがあります。いつもにこやかで子供達の指導に、ご自身の演奏活動に忙しく飛び回っておられました。また子供達に日本でコンサートを開くチャンスを与え、その中から既にプロのヴァイオリニストも誕生し活躍しているとのことでした。

32年間続いたアカデミアを2012年に閉じ活動の拠点を日本に移しました。森の中の木造ホールでの演奏会に招かれたことがありましたが、間近で聞くヴァイオリン演奏の迫力に大いに堪能しました。現在は勝浦市の自宅兼ホールでコンサートや後進の指導に当たるなど引き続き積極的な音楽活動をつづけておられます。

「松本清張」(推理小説家)

1965年8月に男性死体の入ったジュラルミンケースがアムステルダム運河に浮いている事件が発生しました。その直後にベルギーのトンネルで日本人男性が自動車事故死する事件が発生し両者の関連で捜査が行われましたが迷宮入りとなりました。

翌年の晩秋、松本清張氏が現地視察に訪れ、たまたま私が現地側との通訳を引き受けました。松本氏は私との挨拶もそこそこに橋の下を覗き込む、土手の状況を仔細に点検するなど現場検証に没頭していました。車の中でも珍しいオランダの町並みなどには関心を示さず、たばこをくゆらせながら専ら事件の真相や小説の組み立てなどに熱心に考えをめぐらせていたものと思われまふ。1969年に推理小説「アムステルダム運河殺人事件」を世に問うています。



(編集注：筆者菅野哲哉氏は本寄稿文起稿後、2018年1月に逝去されました。ご冥福を祈ります。)